平成２７年３月１２日

平成２６年度練馬区立石神井東中学校　学校評価報告書

練馬区立　石神井東中学校
校　　長　堀 井 安 伸　公印

１　自己評価結果

(1)　概要

①　人権教育を推進し、自他を尊重する心の育成

「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができるようになる」ことを目標に人権教育を行い、自己肯定感を高めた。自己肯定感を高めさらに自他を尊重する心を育成することでいじめの防止等にもつながると考える。「いじめは、人権侵害である。」と言われるようにいじめは絶対に許されるものではない。いじめ防止に向けては、アンケート調査等だけではなく学校行事やいのちの講演会等の学校教育全体を通して生徒が「認められている」「満たされている」あるいは、「いのちの大切さを実感できる」機会を通して、自他を尊重する心の育成を図ってきた。いじめに関連した質問では、「他人をいじめたり、自分がいじめられたりしていない」と肯定的に回答した生徒が９６％であるのに対し保護者の「いじめ０を目指す取り組みが十分である」と肯定的な回答が５３％にとどまった。本校の包括的な取り組みがわかりにくかったと考える。

②　授業改善による学力の定着及び学力向上

各教科において、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力等をバランスよく育成することを通して、生徒に確かな学力を身に付けさせ学力の向上を目指した。そのために、教員一人一人がわかりやすい授業の構築に向けて指導方法の工夫を行ってきた。「先生たちは授業を工夫している」と肯定的な回答は、生徒８１％に対し保護者が５７％にとどまった。「落ち着いた雰囲気で自分のためになる授業となっている」と肯定的に回答した生徒が６３％になったことも保護者に取り組みが伝わらなかったことが一つの要因と考える。本結果を真摯に受け止め、今後とも生徒の学力の向上に向けて取り組んでいく。保護者にも学校公開等の機会を活用させ、授業について忌憚のない意見を聴取する。

③　生活指導を充実させ、基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成

『あいうえお』（「挨拶」があふれ「いじめ」がなく、校舎環境　が「美しく」保たれた「笑顔」と「思いやり」に満ちた学校）に向け、元気な挨拶を心掛けさせるとともに、良い言語環境をつくる活動の充実を図り、社会生活の基本となる価値観・礼儀を育成してきた。「『あいうえお』を学校生活で実践している」と肯定的に回答した生徒が６２％であった。「学校は挨拶や時間・学校のきまりを守らせるなど、生徒にルールやマナーを身に付けさせる指導をしている」と肯定的に回答した保護者は８３％であった。生徒は時間を守る、ルールを守って学校生活を送ること等は概ねできているが、朝の挨拶運動での挨拶では、大きな声で挨拶が返ってこないと参加された保護者から話を伺う機会がある。学校でも挨拶については指導しるが、家庭との連携を図ることも必要と考える。

④　キャリア教育を充実させ、主体的な自己実現に取り組む生徒の育成

自分の役割を果たすことを通して、社会的・職業的自立を促すために必要な基盤となる能力や態度を育成してきた。「生徒会活動や委員会・係活動を積極的に行っている」と肯定的に回答した生徒が８７％であった。一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア（人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割の関係を見いだしていく連なりや積み重ね）の発達を促す教育がキャリア教育である。自分の役割を果たして活動し、人や社会にかかわり、かかわり方の違いから「自分らしい生き方」を見つけるよう係や委員会活動・職場体験等にとどまらず教育活動全体を通して推進していく。

適切である　　改善を要す

(2)　根拠となる資料（平成２７年度　教育課程の改善点）　　A ―― B ―― C ―― D

	項　目	平成２６年度教育課程の学校評価（自己評価）	平成２７年度に向けての改善点
１ 学校運営・組織運営等	1 学校教育目標の設定・実施の状況	A	
	2 学校の明確な運営・責任体制の整備状況（校務分掌の状況、主任等を活用した校務処理体制の整備状況等）	B	
	3 情報管理の状況（公文書の作成・収集・保管、個人情報の保護等）	B	
	4 小中一貫教育､幼小連携など学校間の円滑な接続に関する工夫の状況	B	
２ 学習指導等	1 指導計画、評価計画、授業時数等の教育課程の編成・実施の状況	B	
	2 適正な評価・評定の実施と校内体制の整備	B	
	3 基礎的･基本的な知識や技能の習得に向けた指導の充実	B	
	4 思考力・判断力・表現力を育成する指導の充実	C	問題解決学習や考える過程や整理する活動を積極的に取り入れるよう授業改善を行う。
	5 理数教育の充実	B	
	6 学校図書館の活用および読書活動の状況	B	
	7 授業の充実に向けた外部人材の活用状況（少人数・ＴＴなど）	A	
	8 説明、板書、発問など、各教員の授業の実施方法	B	
	9 授業改善推進プランの公開と活用状況	A	
	10 ＩＣＴ教育の推進および電子黒板の活用状況	C	電子黒板を活用した授業が実施できるよう授業改善を行う。
	11 校内･校外研修の実施状況（研究授業、教材研究・指導方法に関する研究等）	B	
	12 副教材の活用状況・組織的な対応（保護者負担の学年差・教科差の状況）	B	
３ 道徳・総合的な学習の時間・特別活動	1 道徳教育全体計画・年間指導計画の活用状況	B	
	2 道徳教育推進教師を中心とした校内体制の整備	B	
	3 道徳の時間の実施状況（週ごとの指導計画による内容の確認）	B	

	4 規範意識を身に付けさせる取組	B	
	5 総合的な学習の時間の取組状況	B	
	6 特別活動の取組状況(学校行事等を教科等に不適切に代替している状況はないか)	A	
4 人権教育	1 人権教育の全体計画・年間指導計画の活用状況	B	
	2 教職員に対する人権感覚向上の取組状況	B	
5 生活指導	1 いじめ問題への取組状況	A	
	2 学校いじめ防止基本方針等の達成状況	B	
	3 不登校、教育相談体制および取組状況	A	
	4 心のふれあい相談員、スクールカウンセラーの活用状況	A	
	5 情報モラル教育の充実	B	
	6 学校サポートチームの設置状況	A	
6 進路指導	1 進路指導体制の状況	B	
	2 キャリア教育全体計画活用状況	B	
7 安全管理	1 学校安全計画の作成・実施状況	A	
	2 危機管理マニュアルの作成・活用状況	B	
	3 安全点検の実施状況（通学路の安全点検を含む）	B	
	4 セーフティ教室および薬物乱用防止教室の実施状況	B	
	5 地震対策の手引きの活用状況	B	
8 体力の向上・健康の保持増進	1 体力向上への取組状況(新体力テストの結果の活用等)	B	
	2 健康診断（事前指導・事後措置を含む）の実施状況	A	
	3 食育全体計画の活用および食育の推進	B	

	4 性教育全体計画・年間指導計画の活用状況	B	
9 特別支援教育	1 校内支援体制の整備状況（校内委員会、特別支援教育コーディネーター、校内研修、学校生活支援員等）	A	
	2 個別の指導計画および教育支援計画の作成状況	B	
10. 学校評価	1 自己評価の実施状況	C	精度の高い調査結果を得るために調査項目や手順について見直していくことが必要である。
	2 学校関係者評価の実施状況	B	
	3 公表の実施状況	B	
11. 保護者地域住民等との連携	1 学校評議員やＰＴＡとの懇談や学校運営協議会などの実施状況	B	
	2 学校運営への保護者、地域住民の参画および協力の状況	B	

２　学校関係者評価

（1）　総括

①成果

・自他を尊重する心の育成に向けて、いじめアンケートやいのちの講演会等だけではなく、行事の充実等様々な教育活動を通じて取り組んでいる。幅広い活動を通して、生徒一人一人が輝く場面を作ることは大切である。
・学力の向上に向けて、少人数指導や放課後の補充教室等の取り組みはとてもよいと考える。今後も継続していただきたい。
・基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に向けて、ソーシャルスキルトレーニングを取り入れる等工夫を図っている。あいさつ運動も伝統であり引き続き取り組んでもらいたい。
・主体的な自己実現に取り組む生徒の育成に向けて、職場体験、委員会活動、係活動等生徒が直接体験する場面はとても重要である。今後も工夫を図って充実させて欲しい。

②課題

・いじめ防止に向けた学校の取り組みについて多角的行われていることを保護者に伝え切れていない。
・学校は学校公開等の機会を通じ、授業を公開しているが参観する保護者が少なく、一点だけをとらえ判断されている。
・大きな声で返事をすることで、あいさつが活発になったと考えられている。
・生徒が行事や部活動だけではなく、委員会や係活動等、様々な機会を通して充実感や満足感を得られるように工夫していることが理解されていない。

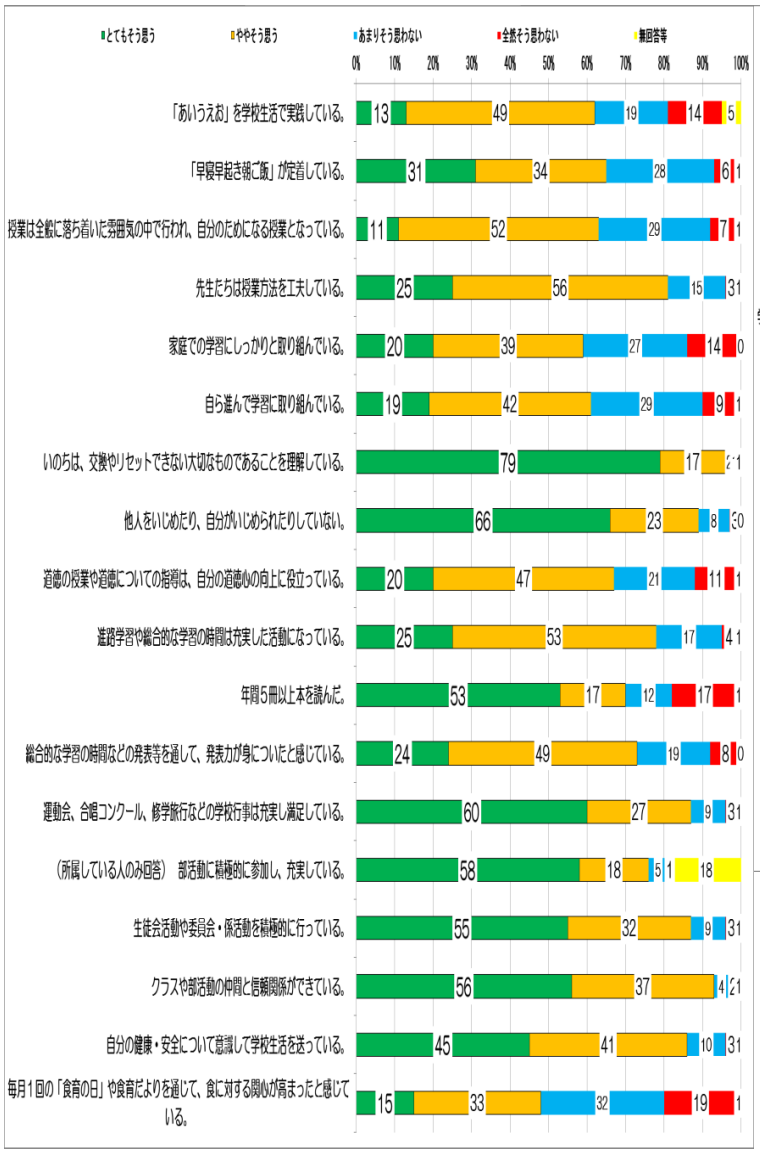
③改善策

・いじめ防止やいじめの対応については、デリケートな部分もあり全容を保護者に伝えるのは難しいが、保護者会等の機会を捉え理解を促していく。

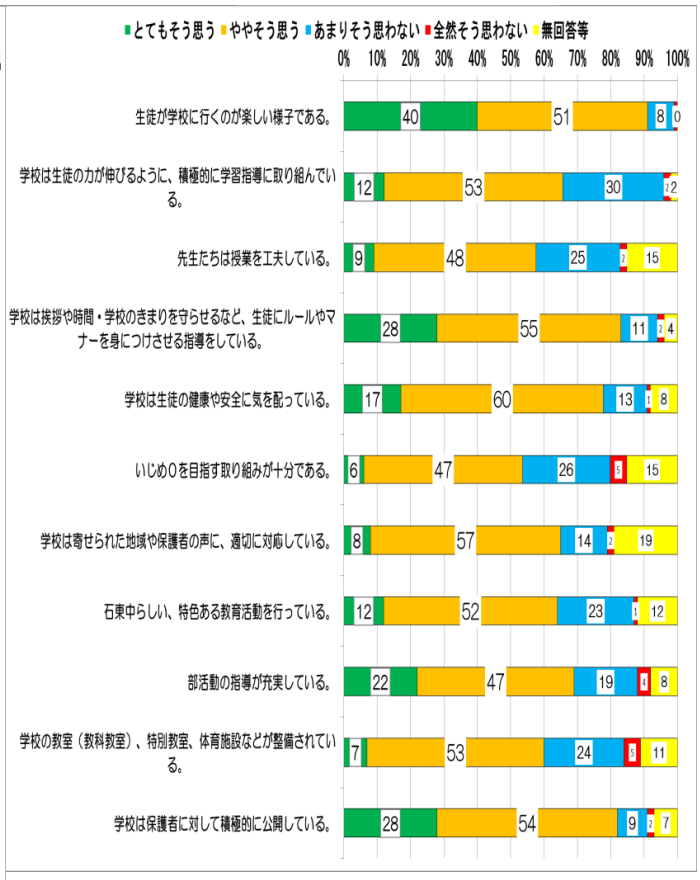
・保護者が授業を参観したいと思えるよう公開授業の内容を工夫し、参観率を高めていく。
・家庭との連携をさらに深め、自然なあいさつができるようにする。
・生徒の頑張りを積極的に保護者に伝える等工夫を図る。

(2)　根拠となる資料

【生徒アンケート】



【保護者アンケート】



3　評価結果の公表等

添付した「学校だより」を各家庭に配布し、さらに本校ホームページに掲載している。

4　次年度の学校改善へ向けた校長の見解

（1）中期目標の達成状況

①　めざす生徒像

９割以上の生徒は明るく生き生きとして礼儀や規範意識が身に付いている。全般的に授業規律等は９割以上確立しており、校内暴力等の課題は少ない。行事や部活動には、積極的であり真摯に取り組み、大きな成果をあげている。

課題としては、人権感覚、主体性、自尊感情、自己有用感等、人間関係や年齢に応じた成長が不足しているなど、特別な支援を必要とする生徒が増加しつつあり、特別支援を基調とした具体策が必要であ

る。生徒数が多いことで、課題が多岐にわたり個別指導に継続的、組織的な具体策が必要である。また、自己肯定感や自己有用感が不足している生徒がおり、将来の夢や目標を持たせる指導も必要である。

② めざす学校像

生徒数が多いことで様々な活動において切磋琢磨ができ人間力を高める環境にある。各種の学校行事を活発に活動し、満足感、充実感は高く、感動体験を与えている。保護者、地域の理解と協力は得られており、概ね学校の支援者である。組織の各教員が適切な役割を担っており、組織として確立している。

課題としては、保護者は教育活動全体については肯定的だが、教育の質については不満の意見がややある。地域行事への参加等、連携をさらに強化し「地域の学校」を確立させる必要がある。適切且つ迅速な課題解決に向け、学年・学校としての組織力のさらなる向上が必要である。

③ めざす教師像

教員としての使命感をもち、指導力がある教員が多く、改善への努力を惜しまない。生徒の主体的な活動を支援し、適切な指導をしている。教員同士は、課題解決に向かうときの共同の精神が強く、教職員間は良好である。

課題としては、生徒の特性、社会の変化、教育界の変化、都や区の教育施策に対して主体的に対応する姿勢を維持するために、意図的・計画的な校内研修の充実が必要である。人間としての生き方の自覚を促すために、道徳の時間の充実が必要である。若手の育成が緊急的な課題であり、明確且つ組織的なOJTによる育成が必要である。

（２）短期目標の方針

経営計画２年目になる。実践によって得られた成果は、本校の新たな伝統として築き上げることができたていると考える。それは、特別活動・教育相談活動・人権教育の充実によりいじめ・不登校の減少等である。そこで、これまでの教育実践で得た成果を踏まえさらなる教育活動の充実に向け、昨年度に引き続き下記のような「４つの柱」を定め実践していくこととする。

第一に、全教育活動を通じ人権教育を行い、**人権尊重の精神の育成を図る。**

第二に、小中一貫教育の実践を通して、様々な課題に対する解決策を発見し**学力向上を図る。**

第三に、主体的な研鑽を積み生活指導の質を高め、社会人としての**規範意識の向上を図る。**

第四に、キャリア教育の質を高め、主体的に**夢や目標を達成しようとする心の向上を図る。**

そして、この一つ一つにおいて先進校の実践を参考に、本校独自の教育活動を確実に行い、具現化を図っていく。

また、地域の中にある学校として、「目指す学校像」を達成する過程において、地域住民や学校評議員・PTA 等保護者の教育力を活かし、生徒を安心して通わせることのできる地域から信頼される学校づくりを進める。さらに、新たに発生してくる課題解決に向け、明確な目標と具体的な手立てにより確実な実践を推進し、その結果に対する検証を励行するという PDCA サイクルを充実させ、確実に成果を上げることが重要であると考える。

そこで、本年度の経営方針を次のようにする。

＜さらなる教育力の向上と確実な成果＞

これを受けて、下記のとおり、全ての教育活動を推進しつつ、本年度の重点目標、達成基準、具体的な方策をもち教育活動を確実に展開し成果を上げていくものとする。